

水はカメレオン

二千十一年九月。窓の外は、今まで自分が見たどの雨よりも激しい土砂降りの雨が降っていた。住んでいたマンシヨンの前の、道路があるべき場所がまるで川のようになっていた。台風十二号が三重県、和歌山県、奈良県を含む熊野地域を襲った。私は、小学校生活を和歌山県新宮市というところで過ごした。その台風は、明治時代以来といわれるほどのすさまじさだった。たくさんの家や学校が浸水し、いつも夏になると泳いでいた川も氾濫した。世界で唯一の川の世界遺産である熊野川も氾濫し、橋が渡れなくなった。家では、マンシヨンの一階にも関わらず、雨漏りがした。熊野川の橋を渡ることも、川で泳ぐことも、いつも水害のことを考えてしまい、少し怖かった。楽しく泳いだりもぐったりしていい川。とても珍しい世界遺産である熊野川。

生駒市立上中学校 二年

堀 杏菜

たった三日ほど続いた雨のせいで、それらが周りの物をぐちゃぐちゃに破壊してしまった。そう考えると、とてもショックだったし、驚いた。私は水の強さと恐ろしさに気づかされた。これは、津波でもいえる。水は、一瞬で命を落とさせ、家などの建造物を破壊してしまいう危険で強いものなのだ。しかし、水は危険で強く、恐ろしいだけのものではない。この台風が来た時、断水になった。トイレの水を流す時、手を洗う時。何もかもが不便だった。私達は、偶然たまっていたお風呂の水を使って生活した。市役所で水を配っていると、いうので、もらうために、並びに行った。昼間に並んだのに、やっともらえたのは夕方だった。あの水害を通して水のありがたみや大切さにも気がついた。実際私達人間は、生命を維持するためにどのくらいの水が必要なの

だろうか。疑問に思った私はインターネットで調べてみた。すると、一日一人当たり三リットル必要だということが分かった。災害復旧には、早くても三日間要するので、一人当たり九リットル必要だ。だから、私の家族分だと三十六リットル必要だということが分かる。また、蛇口をいっぱいひねると、一分間で約二十リットルの水が出るそう。だから、二分間水を出しっぱなしにするだけの水で、家族全員が生きられるのだ。私はこのことに驚いた。そして、その分の水を節約しないといけないと考えた。世の中の人々は、水の大切さに気づき、節水を心がけているのだろうか。

たしかに、節水を心がけている人はたくさんいると思う。節水をしようと呼びかけるポスターや貼り紙もよく見かける。しかし、節水したつもりになっている人がほとんどだと考える。

なぜなら、「生命を維持するために必要な水の量」を知る前の私がそうだったからだ。私は、節水を心がけているつもりなのに、ついついシャワーや水道の水を出しっぱなしに

していた。だから、私は、それを知ってから、今まで少しづつ水を出しっぱなしにしていたことにとっても後悔した。日々積み重なってきた、出しっぱなしにしていた水があれば、どんなに助かるかが分かった。そして、自分が今まで漠然と節水しないといけないと考えていたことに反省した。水がなければ、生物はみな生きられない。地球も、水がなければ今のようないろんな惑星となっていない。だから、水はとて大切な存在なのだ。考えた。水には、悪い面もあるし、良い面もある。しかし、自然の力には逆らえない。私は、あの水害で体験したこと、テレビで見た津波の映像を忘れない。そして、もし、我が身にそれが降りかかってくる時、どう対応するかを知らなければならぬ。また、節水を心がけ、水の重みを知る人はそんなにいない。だから、まず、身近な人から節水を心がけようと呼びかけようと考えた。